

今夏は、大学の春学期試験が終わると直ぐに秋田へ向かった。「トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会」が各都道府県でスタートし、秋田県と同協議会には委員として参加することになったからだ。内容は別の機会に譲るとして、秋田で食したとんぶり、はたはた、地酒は最高であった。帰京して翌日には沖縄に向かった。何はさておきチャンプルー、海ブドウ、泡盛である。まだまだ続く。一連の会議は福岡、鹿児島、宮崎、長崎、佐賀でようやく一段落。各地の海の幸、山の幸、絶品の酒を久しぶりに堪能した。

『物流問題研究64号（2015年夏）』の特集の部は、現下注目されている「物流の労働時間短縮への取り組み」を取り上げた。物流業は労働時間が他の業種に比較しても長く、時短への取り組みが喫緊の課題となっている。長時間労働抑制に対処しなければ“ブラック業界”のレッテルを貼られてしまう。時短実現に向けた様々な課題や具体的対応策を紹介していただいた。執筆者の皆様には、この場を借りてお礼を申し上げたい。

本誌は本学ホームページに掲載しており、誰でも閲覧できる。「知の共有」の場として少しでも役立てばと考えている。

なお、本誌の掲載論文ならびにロジスティクス産学連携コンソーシアムのタイムリーな活動情報も、ホームページにも掲載しており、是非お立ち寄りいただければ幸甚である。(http://www.rku.ac.jp/distribution/index.html)

小野